

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和8年5月分）

【製造業】

- 製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比▲8.9%となった。ヒアリングでは、工作機械部品については、AIの普及に伴うスマホやPC関連機器製造に係る需要が増えているとの声がある一方、中東情勢の影響で大手メーカーの2車種の生産ラインを4工場で停止することになったとの声も聞かれた。
- 地場産業は、3月の鉱工業生産指数は窯業・土石、繊維工業、食料品で下降した。ヒアリングでは、業界の景気は悪くなく注文はあるが、職人不足から製品として出荷するペースが落ちているといった声や、副資材の「塗料」の入手に苦労しており、今は生産量の上限にセーブをかけなくてはならない状況といった声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比45.1%増加となった。ヒアリングでは、防衛関係部品の設備を拡張する計画があり、県の「ぎふ企業成長投資補助金」の申請をしたといった声がある一方、部品調達が厳しい状況のため、既存のものを修理し性能を上げていく方向で対応しているといった声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、4月の販売額は、全体で前年同月比1.7%増加となった。ヒアリングでは、4月単月では売上が歴代4位、客数は歴代最高を更新。5月も好調を維持し、売上・客数共に5月の歴代過去最高記録を更新予定といった声や、ホームライフ含め客数が多い飲食・食物販の単価上昇により全体客単価は前年よりプラスに転じたといった声もあった。

【観光】

- 宿泊者数は前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、コロナ前の約9割まで戻ってきている。
- 宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 4月の制度融資実績は前年同月比▲6.5%となった。融資先の事業者は輸入事業者が多く、円安が続いているため仕入れコストが上がり苦しい状態が続いているといった声や、中東情勢の影響により相談窓口を設置したが、相談件数はほとんどない状況で、相談内容については今後の仕入れについて危惧するものが多く、資金繰りに関するものは少ないとの声が聞かれた。

【雇用】

- 今後も県のジンサポ（プロフェッショナル人材）を活用し技術者の募集は続けていくが、作業者については市場に求職者が増え充足したため募集の予定はないといった声もある一方、募集しても人が集まらず、外国実習生の採用を進めているといった声もあった。

【景気動向】

3月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲4.5ポイント、4月の中小企業の景況感と同▲4.0ポイント減少となった。